

平成23年度
実施事業

事務事業名 登別救難所運営事業補助金

区分	No	名称
章	3	大地に根ざしたたくましい産業が躍動するまち
節	2	自然を活かした産業の育成
施策	1	特色ある農業・漁業の推進
小分類	5	時代に即した漁業生産の基盤づくり
主要な施策	2	漁業経営の改善
事務事業番号	001	事業開始年度 昭和 46 年度 事業終了年度 平成 - 年度 会計種別 一般会計

部 名	観光経済部	グループ名	農林水産 G
-----	-------	-------	--------

事務事業の概要

《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	登別救難所の活動を支援することにより、安全な漁業活動の推進を図る。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成23年度の実績を具体的に記入してください)
	海難事故の防止啓発や海難事故発生時の救助活動を行う(社)日本水難救済会北海道支部登別救難所に対して、運営に要する経費の一部を補助する。 主な事業内容 各種会議、三救難所合同夏季演習、定期訓練、海難防止パレード、海難事故時の救助活動等 総事業費 2,739,018円 補助金額 250,000円
今後の方向性	近年の当市海域においては、漁船による海難事故だけではなく、レジャー型の実験事故も発生していることから、訓練による技術の向上を図り、海難事故時における救助活動の安定化を図る。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	登別市水産業振興対策事業補助規則

事業費(財源内訳)の推移

《Plan・Do》

区分		単位	H22年度 決算	H23年度 決算	H24年度 当初予算	H25年度 見込	H26年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円	250	250	250	250	250
事業費合計			250	250	250	250	250

指標の推移

《Check》

区分		単位	区分	22年度 実績	23年度 実績	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果指標	夏季演習、定期訓練等開催回数	回	目標値	2	2	2	2	2
			実績値	2	2			
	漁船海難防止パレード開催回数	回	目標値	1	1	1	1	1
			実績値	1	1			

現況		《Check》
現状の状態、問題点、課題等《事業前》	具体的な対策、解決の方向性《事業後》	
<p>現状</p> <p>近年の当市海域においては、漁船による海難事故だけではなく、漁港等での転落海難事故やプレジャーボートによる海難事故も発生している。</p>	<p>具体的な対策</p> <p>訓練による技術の向上を図り、様々な海難事故時における救助活動の安定化を図る。</p>	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について		
<p>市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？</p>	<p>市が主体に行うべき事業である</p> <p>民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である</p> <p>国、道、他団体等との連携や広域化が可能である</p> <p>国、道、民間等の事業と重複・類似している</p>	<p>判断理由及びその他所見</p> <p>市が登別救難所の運営費の一部を支援することにより、登別救難所の運営を安定させ、海難事故時における迅速な救助活動及び事故防止の啓発活動の推進を図る。</p>
2. 事務事業の必要性について		
<p>市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？</p>	<p>市民、団体等から具体的な要望がある</p> <p>市民アンケートの結果から必要性が高い</p> <p>社会情勢、地域事情等から必要性が高い</p> <p>市民の大部分が関連することから必要性が高い</p>	<p>判断理由及びその他所見</p> <p>登別救難所は、漁船海難事故等の相互扶助を目的として設立されているが、漁港等での転落海難事故やプレジャーボートでの海難事故における救助活動にも協力している。</p>
3. 事務事業の効率性について		
<p>事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？</p>	<p>低予算、少労力で高い効果をあげている</p> <p>市で実施するほうが民間委託より効率性が高い</p> <p>多額の経費や労力を要するがやむを得ない</p> <p>将来的に効率性を向上できる</p>	<p>判断理由及びその他所見</p> <p>日本水難救済会北海道支部登別救難所の事業であり、その経費の一部を支援することで高い効果をあげている。</p>
4. 事務事業の成果について		
<p>目的を達成するための成果はあがっていますか？</p>	<p>成果指標の向上が見られる</p> <p>市民、団体等の声から成果を感じられる</p> <p>目に見える形で成果があがっている</p> <p>成果の把握は困難である</p>	<p>判断理由及びその他所見</p> <p>海難事故に伴う救助体制の維持が図られている。</p>

担当グループによる評価 《Check》

維持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	海難事故における救助活動は、従来の漁船の海難事故に加え、要請に応じて市民等によるレジャー型の海難事故にも協力している。海上での救助活動は一刻を争うものであり、登別救難所は大変重要な役割を担っている。
----	----------------------	---

行政評価会議による評価 《Check》

維持	備考	
----	----	--